

深イ～話！

No.13

— 『一流たちの金言 2』 致知出版社【人は生きてきたように死んでいく】 —

金城学院大学学長、淀川キリスト病院名誉ホスピス長、柏木哲夫氏の言葉より

この世に生を受けたものは、ただ一人の例外もなく、死を迎えます。まさに人間の死亡率は100%です。しかし私たちは日常生活の中で、あまり自分の死ということを考えないで生活をしているのではないかと思います。頭の中ではやがて自分も死を迎えるということは誰もが理解をしているのですが、自分の死についてしっかりと考えるということを、あまりしないのではないのでしょうか。

私は過去20年間ホスピスという場で仕事をしてまいりまして、約2500名くらいのがんの末期の患者さんを診てきました。その看取りの中から、様々なことを患者さんやご家族から教えていただきました。

まずその第一は、生の延長上に死があるわけではなくて、私たちは日々死を背負って生きている存在である、ということです。普通私たちは、元気で病気をしないで生きているときには、生の延長上に死があるというように思っています。ところが、実際にホスピスという場で仕事をしておりますと、私たちは死を背負って生きているということが本当に実感としてわかります。

私が現在も非常勤で勤めております淀川キリスト教病院のホスピスは21床のホスピスで、入院をされた患者さんの平均在院日数は、大体ひと月です。一ヵ月で亡くなられるか退院をされます。一時退院をする患者さんが20%から25%おられますので、ホスピスへ入院をすると、すべての患者さんがそこで死を迎えられるというわけではないんです。しかし多くの方はその初めてのホスピスへの入院が最後の入院になります。平均年齢が63歳なんです。

多くの患者さんやご家族と接していきまして、私は一つの症候群を発見いたしました。それは「^{やさき}矢先症候群」という症候群です。「矢先症候群」というのはどういうものかと申しますと、数年前に看取った、それこそ63歳の肝臓がんの末期の患者さんが入院してこられたときに、奥様にお話を伺いますと、「主人は本当に会社人間で、一生懸命会社のために働いてきた。そしてやっと定年で退職して、子供たちも独立して、これから2人でゆっくり温泉めぐりでもしようね、そう言っていた矢先なんです」とこう言われるんですね。もう一人の患者さんは、卵巣がんで亡くなられた、この方

も63歳の女性の方です。5人の子供さんがあって、卵巣がんの末期で入院してこられたときに、ご主人が言われました。「家内は本当にいい妻であり、いい母親でした。私が仕事で外で忙しく働いている間に、5人の子供を立派に育ててくれました。ついこの間5人目の娘が結婚をして家を出て、2人きりになりました。今まで苦勞をかけたので、これから2人でゆっくり温泉にでもいこうねと思っていた矢先なんです」。これが「矢先症候群」です。これまで、生の延長上に死があると思っていた。

しかし定年退職とか娘の結婚とかをきっかけにして、何か一段落ついて、今までできなかったことをゆっくりしようと思った矢先に来るんです。

皆さん、したいと思われることは、あまり伸ばされない方がいいと思います。

それから二番目に、患者さんから教えていただいたことは、人は生きてきたように死んでいくということです。これも本当にそのように思います。

ですから、しっかり生きてきた人はしっかり亡くなっていかれますし、表現はおかしいけれどもベタベタ生きてきた人はベタベタ亡くなっていく。

それから、周りに感謝をして生きてこられた人は、私たち医者やナースに感謝をしながら亡くなっていかれますし、不平ばかり言って生きてきた人は、我々に不平ばかり言って亡くなっていくんですね。

このことは、よき死を迎えるためには、よき生を生きなければいけない、ということをお教えていると思うのです。

では、よき生というのはいったい何か。

そこには個人の主観がだいぶ入ると思うんです。Aさんにとってよき生とはこうだし、Bさんにとってよき生とはこうだというふうに、人によって皆違う。

ただ、2500名の看取りの中で私が感じることは、やはり前向きな人生ということ、それから周りに感謝できるということ。その2つに集約されるような気がして仕方がないんです。

物事には必ずプラスとマイナスがありますが、物事のプラス面をしっかり見た生き方をしてこられた方々。そういう方々の生は、やっぱり前向きでよき生なんだろうと思うんです。

それから、感謝 というのはとても重要なキーワードだと思うんです。

家族に対して、周りの人たちに対して、最後に「ありがとう」と言いながら、そして自分も相手から「ありがとう」と言ってもらいながら生を全うできるのも、よき生だと思うんです。

そういう生を全うする人を、私は人生の実力者と呼んでいるのです。